

保育者養成校における保育の歌の表現に関する考察 —ピアノ伴奏による弾き歌いの観点から—

A Study on Expression of childcare Songs at a Training School for Nursery Teachers
From real situations of singing with piano accompaniment

下清水 陽 子
Yoko SHIMOSHIMIZU

要旨

本稿では、保育者養成校で学ぶ学生が保育の歌の弾き歌いを学ぶ際に陥りやすい問題点を挙げ、その解決策を見出す。そのために、まず保育の歌の持つ意義を考察する。そして、保育の歌の指導を行う際に保育者が養成校で学んだことと実際に保育現場での音楽指導の差異を明確にする。

保育実践の場に於ける保育者の現状及び保育に求められる音楽表現を考察することで「ピアノ伴奏法」と「歌詞の意味を伝えて気持ちを入れて歌う」という2つの問題点が示唆された。これらを解決する為に、ピアノ伴奏については簡易伴奏、アレンジ方法、ペダルの使用について考察した。歌詞の意味については、学生の歌詞中の語彙の理解度、幼児の語彙の理解、語彙を補い保育の歌のイメージを膨らませるための絵の活用を考察した。又、歌詞を正しく伝えるためのピアノ奏法についても言及した。

キーワード 幼児教育 表現 保育の歌 ピアノ伴奏 歌詞

はじめに

保育の場に於ける音楽教育は、童謡等の歌唱指導、器楽による合奏指導、リトミック、劇遊びの中で行われる歌唱指導などが挙げられる。筆者は、長期にわたりピアノ指導と保育の曲の弾き歌いを指導し、学生にどのような指導が最適なのか模索してきた。その中で、保育の場で求められる内容と実際に行われている現状を知ることが必要だと考えた。

内閣府、文部科学省、厚生労働省による幼保連携型認定こども園教育保育要領（平成29年3月31日）によると、表現に於ける「ねらい」では、「豊かな感性、じぶんの表現、生活の中のイメージを豊かにし様々な表現を楽しむ」とし、「内容の取扱い」では、「豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の園児や保育教諭等と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。」⁽¹⁾とある。しかし、イメージを膨らますために必要なのは、楽曲を通して歌詞の意味、言葉の美しさを幼児に伝えることである。指導要領の「言葉」に於ける「内容」では、「いろいろな体験を通してイメージや言葉を豊かにする」「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、創造する楽しさを味わう」⁽²⁾

とある。これらから、幼児曲の音楽指導は音楽的表現と言葉を豊かにしてイメージを膨らませることに大きく関わっていることが示唆される。

本稿では、保育者養成校の学生が保育の歌の弾き歌いを行う際に陥りやすい問題点を提起し、その解決策を考察した。

1. 保育者養成課程における保育の歌の意義

保育の場で歌は子どもの成長にどのような影響を及ぼすのだろうか。若山剛らは「歌を口ずさむ、身体でリズムをとってあげることで、情緒が安定し、コミュニケーションのきっかけとなるなど、それが心の安定の大きな影響を与えていることは誰もが実感していることであろう。その意味でも、言葉の発達と音楽、そこには発達上、多角的な相互関係が伺えるのではないかということが考察できる。」⁽³⁾と論じている。また、武田道子は「子どもの生活は遊び、遊びながら学んでいくと言われる。歌う事も子どもにとっては、遊びの一つである。より教育的な意図のもとに、歌遊びが構成されるなら、音楽的に幸せに包まれた子どもに育っていくだろう。」⁽⁴⁾と論じ、子どもが遊びながら音楽を楽しむことの大切さを述べている。これらのことから、保育の場で歌うことが他者とのコミュニケーションの取り方、情緒の安定、言葉の発達といった子どもの成長に繋がると考えられる。

保育の場での歌の教育は、子どもの音楽への親しみやすさも左右する。吉井妙子著「音楽は心と脳を育てていた」の中で、古屋晋一は「脳が柔らかい幼児は、興味をもったものに夢中になり、そしてそれを真似したがる。真似を繰り返せば、脳に記憶され、それが脳力として定着する。」と述べている。⁽⁵⁾ また、玉置温子は「音楽的素質とは、特別なものではなく、聴覚が正常であり、感受力があり、声が出せて、手足や体が動かせるということである。こうしたごくありふれた普通のこと、音楽的環境の中におかれて培われてゆくとき、音楽的才能と呼ばれるものになるのである。音楽的才能が遺伝的なものでなく、環境的なものであるといわれるのもこの理由によるのである。したがって、この時期の音楽的環境作りは、非常に重要な意味をもつものとなってくるのである。乳幼児はこの環境の中で、自然発生的に歌ったり、踊ったり、奏したり、きいたりして、音楽のたのしさを味わいつつ、その能力を伸ばしてゆくのである。」⁽⁶⁾と論じている。よって、保育の場での歌が、音楽を楽しみ、好きになるかどうかを左右すると考えられる。

2. 保育実践の場における保育者の実状と課題

保育における歌がこのような多大な影響を及ぼすとすれば、保育者による歌の音楽指導は大変重要だと言える。それでは、保育者は実際にどのような問題意識を持っているだろうか。

保育の場で前川典子が6つの幼稚園と一つの保育園で、計79名の保育者に「養成校と現場の違い」を自由形式でアンケート調査を行った。そこで、保育者が保育の場で感じている問題点等が挙げられた。

歌唱指導のピアノに関する回答では、「メロディーだけでも続けることが大事」「子どもたちに合わせてピアノを弾くことが難しく感じる」「歌の教え方が難しい」「暗譜しないと子どもの様子も見ながら弾き歌いができない」「鍵盤を見ずに弾くこと」「かけ声をかけたり、歌いやすくするには（華やかで簡単な）アレンジが必要」「行事の曲の選定」などが挙げられた。なお、歌唱指導の歌に関

しては、「歌唱指導では、歌詞の意味を理解して気持ちを入れて歌えるようにする伝え方に苦勞する」という回答が見られた。⁽⁷⁾ このように、多くの保育士が歌唱指導の際、ピアノ伴奏に苦手意識を持っていることがわかる。その理由は、ピアノ伴奏は出来不出来がはっきりとしていて、自他ともに上手く弾けなかったことが明瞭になるからである。この点に関しては、ピアノ伴奏の練習方法や簡素化された伴奏譜を用いる等、改善方法が複数挙げられる。

しかし、保育者が問題として認識すべきことは、歌詞とメロディーが合体した曲のもつ意味を表現することではないだろうか。仮に、ピアノ伴奏が原曲通りに弾けていても、歌唱が聴き取りにくかったり、その曲の持つ表情と合っていないければ単なる伴奏のみの指導になってしまう。例えば簡素化された伴奏でも、曲にそった伴奏と明瞭な発音を伴った表情豊かな歌唱であれば、曲の持つ意味が子どもたちに伝わるのではないだろうか。先のアンケートで「歌詞の意味」に触れた回答は一つだけだったが、前述の理由によりこれは重要である。

3. 保育に於いて求められる音楽表現

2節の議論より、保育者は表面的な問題点について、認識していた。それ故に、保育者が感じている音楽表現と言うと、「譜面通りに間違えずに弾けること」「正しい音程で歌えること」「リズムよく弾けること」など、自他共に明確に分かる事項と考えられる。しかし、伴奏と歌の両方が組み合わせあって表情豊かに表現することまでは、認識されていないように思われる。確かに「譜面通りに間違えずに弾けること」「リズムよく弾けること」ということは必要であるが、その曲に合った子どもが歌いやすいテンポ感や音色が備わっていなければ、表現という点に於いて不十分である。「正しい音程で歌える」ことも大変重要である。しかし、曲のイメージに沿って語りかけるように歌ったり、元気よく歌ったりすることが伴わなければ、子どもに歌の持つイメージが伝わりにくい。曲のもつ情景、歌詞から伝わる曲の意味、登場する人物や動物等の感情が表現されてこそ、保育に求められる音楽表現と言えるのではないか。情緒が育まれ、よりよい人間形成が行われるからである。保育者が保育の歌の弾き歌いを行う際には、「情景や曲の意味、登場人物などの感情の表現」を意識することが大切である。

このような視点から、保育の歌の弾き歌いに関しては、保育実践で有用な演奏能力を習得するための方法として、伴奏譜の簡素化（以下、「簡易伴奏」とする）への取り組み、歌詞の理解、歌い方とメロディーの弾き方の関連について述べる。

4. 考察

(1) 簡易伴奏による弾き歌い

簡易伴奏による弾き歌いを行うには、主に楽譜の選定、コードの習得、アレンジ方法の習得が必要である。楽譜は多数出版されており、難易度には差異が見られる。以下に、譜例を示す。

〈譜例1〉

たのしいね

山内(山崎子) 作詞
寺島尚彦 作曲

173

「続こどものうた200」(8) より

〈譜例2〉

たのしいね

山内(山崎子) 作詞
寺島尚彦 作曲

「やさしい伴奏によるこどものうた①」(9) より

〈譜例3〉

たのしいね

山内(山崎子) 作詞
寺島尚彦 作曲

(伴奏編曲: 山崎 尚彦)

「簡易ピアノ伴奏による小学1・2年の音楽」(10) より

〈譜例 4〉

IV
127

たのしいね

●作詞／宮内信子 ●作曲・作編／宮島俊彦 ●編曲／久米雄矢

The image displays a musical score for the song 'たのしいね' (Tanoshii ne). It is a piano accompaniment score, featuring a treble and bass clef. The key signature is one flat (B-flat major or D minor), and the time signature is 4/4. The score is divided into three systems, each with a treble and bass staff. The melody is primarily in the treble staff, with a bass line in the bass staff. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings. The lyrics are written in Japanese and are placed below the treble staff. The score is for a piano, as indicated by the 'P' marking at the beginning.

「年齢別12か月こどものうた154カンタンに弾けてゴージャスに聴こえるピアノ伴奏譜」⁽¹¹⁾ より

「たのしいね」の原譜は譜例 1 で、メロディーを弾かずに両手で伴奏を弾くパターンであるが、最初からこの楽譜で伴奏するとメロディーが幼児に伝わりにくい。従って、譜例 2, 3, 4 のようにメロディーを右手で演奏する楽譜を用いた方が適切だと思われる。譜例 2 は譜例 1 の左手の音をより簡易にしており、原譜に近いものとなっている。譜例 3 は左手の伴奏がコードとなっていて、8 分音符の所はそのリズムに合わせてあり、単なるコード伴奏よりもよりリズムカルになっている。譜例 4 は譜例 2, 3 の特徴を併せ持った形となっているが、左手のポジションの移動がありより華やかに聴こえる編曲となっている。コードが載っていれば演奏する際にコードを用いたリズム変奏を試みるなど、楽譜の伴奏から音の取捨選択を行い各々の能力に応じた伴奏を作ることが可能となる。以上のことから、演奏時に各自の能力に応じた楽譜の選定が必要である。

(2) コードを用いたアレンジ

楽譜通りの演奏が困難な場合は、コードのみを用いることも可能である。そのためには、コードネームの習得が必要である。コードによる演奏ができれば、リズムや音型に変化を付けることも可能である。具体的なアレンジ方法を以下に示す。

〈譜例5〉

(1) 右手で旋律を弾く型



(2) 弾きうたい型



「最新・幼児の音楽教育」⁽¹²⁾ より

上記のようなリズムを用いることでコード伴奏が多様に編曲できる。それにより、保育の場における弾き歌いのピアノに対する苦手意識を減らすことが可能であろう。

(3) ペダルの使用

前川典子が行った先のアンケートの回答の中に、「華やかで簡単なアレンジ方法を知りたい」というものがあつた。「華やかに」するには、伴奏へのアルペジオの導入、コードのリズム変奏、メロディーに対旋律をつける、ペダルの使用などが考えられる。この中で安易に用いられるのが「ペダルの使用」である。童謡等の曲は元来ペダルの表記がなされていないものが多い（例外的に豪華な編曲版もある）が、ペダル使用が表記された曲もある。ここでは、ペダルが表記されている曲として「雨ふりくまのこ」を取り上げる。

[illegible]

「こどものうた200」⁽¹³⁾ より

この曲は、ゆったりとした曲調で、左手の伴奏の音程が離れたアルペジオ風の箇所があり、ペダルを用いることによって、「水」の持っている透明感を表現することができる。しかし、ペダルの適切な踏みかえを行わなければ、非和声音が重なり不協和音が響き、メロディー・伴奏共に不適切な表現となる。

一方、ペダル表記がない曲にペダルを用いることも可能だが、「上手そうに聞こえる」「弾くのが楽になる」という安易な考えでのペダルの乱用は推奨されるものではない。ペダルは、用いる目的と効果を考慮することが大切である。ペダルの使用に関しては、ブルグミュラー・ソナチネ程度の技術と曲に対する理解が必要だと言えよう。

(4) 歌詞の理解

保育の歌の場合、保育者養成課程で学ぶ学生は、その歌詞を理解しているのだろうか。2021年度前期に筆者が担当する受講者を中心に、アンケート調査を行った。

調査日 2021年5月25日 2021年5月26日

調査対象 1 回生 9 名 1 回生 7 名 計16名

学生が「たなばたさま」の歌詞中の意味を理解していない語句は、「きんぎんすなご」が93%、「のきばに」が81%、「ごしきの」が50%で、「おしょうがつ」では、「おいばねついて」が62%だった。

これらの曲は、保育の場で季節や行事の歌としてよく使われており、学生達も幼児期に歌っていたと思われる。しかし、この調査から歌詞の意味を理解しないまま歌っていたと推察される。そう

すると、生活の中の語彙とその意味が増えないだけでなく、その情景が浮かばない故にイメージもわからずただ歌っただけになってしまう。

このことより、分からない語句については、歌唱指導の際に自らよく調べるよう促すことが必要である。学生ですら理解できていない語句があるのなら、幼児にとっては理解できない多くの語句が歌詞の中にあると推測される。語句の意味を幼児に伝えるための方法について以下に考察する。

「雨ふりくまのこ」を例とし、歌詞の中で幼児が理解しにくい語句について、学生にアンケート調査を行った。

調査日 2021年5月13日 2021年5月17日
 調査対象 2回生 19名 2回生 9名 計28名

〈表1〉「あめふりくまのこ」の歌詞の中で学生が4歳児が理解しにくいと思う語句のアンケート結果

おやまに	あめが	ふりました	あとからあとから	ふってきて
0%	0%	0%	42%	0%
ちょろちょろ	おがわが	できました		
21%	71%	3%		
いたずら	くまのこ	かけてきて	そうっと	のぞいて
0%	0%	61%	11%	11%
みました	さかなが	いるかと	みました	
0%	0%	18%	0%	
なんにもいないと	くまのこは	おみずを	ひとくち	のみました
18%	0%	0%	14%	0%
おててで	すくって	のみました		
0%	36%	0%		
それでも	どこかに	いるようで	もいちど	のぞいて
29%	11%	11%	25%	14%
みました	さかなを	まちまち	みました	
0%	0%	96%	0%	
なかなか	やまない	あめでした	かさでも	かぶっていきましょうと
21%	39%	0%	7%	46%
あたまに	はっぱを	のせました		
0%	0%	0%		

表1より学生が選択した4歳児が理解しにくいと思われる語句として、多いものから「まちまち」「おがわ」「かけてきて」「かぶっていきましょうと」「あとからあとから」「やまない」「すくって」「それでも」「もいちど」「なかなか」「ちょろちょろ」「いるかと」「なんにもいないと」など多数挙げられた。このような語句を幼児に説明するには、どのような方法が考えられるだろうか。「まちまち」が「待つ」、「おがわ」が「小さな川」など説明可能な語句もあるが、「あとからあとから」「ちょろちょろ」などは実体験のない幼児には分かりづらいと思われる。身近にない事象を表す語句の理解

を深める手段の一つとして、視覚的理解が有益ではないかと考えた。そこで、実際に筆者が担当する学生に、1番から5番までの歌詞に対して絵を描いてもらった。



〈図1〉

学生達は「あめふりくまのこ」の歌詞からイメージを膨らませ、歌詞には使われていない「カエル」や「かたつむり」を描いている。又、雨つぶを大きく描き、「くまの子」のイラストは幼児が喜びそうな大変可愛らしいものとなっている。学生自身がこのようなイメージを持つことで、弾き歌いを行う際もイメージに沿った伴奏の弾き方、歌い方を引き出すことが可能になり、曲の内容を理解しやすくなる。又、保育の場に於いて幼児は実体験が無くても絵を見ることで疑似体験ができ、曲の情景を思い浮かべたり、歌詞の意味をより理解しやすくなると考えられる。

(5) 歌い方とメロディーの弾き方の関係

童謡等の弾き歌い曲は、近年リズムと歌詞の関係において大きく変わってきている。リズムの強弱の基本は、4拍子で「強拍・弱拍・中強拍・弱拍」、3拍子で「強拍・弱拍・弱拍」とされ、その感じ方で表現できる曲が多数ある。しかし、近代では従来のリズムの強弱の基本に固執せず、リズムや歌詞の始まりの拍に変化を付けた曲も創られている。

例えば、アウフタクトから始まる歌詞の曲を、前述のリズムの基本通りにとらわれて歌うと、そこから始まる歌詞が弱くなってしまい、明確に歌えない状態になる。筆者の担当する授業でも、このような曲に関して、「歌うとやりにくい」と感じている学生が多い。例として「にじ」を取り上げる。

〈譜例 7〉

[illegible][illegible]

「年齢別12か月こどものうた154カンタンに弾けてゴージャスに聴こえるピアノ伴奏譜」⁽¹⁴⁾ より

まず、第1小節で1番と3番の歌詞「庭のシャベルが」「あのこのえんそく」では、2拍目の♪の♪から歌詞が始まっているが、左手の伴奏が1拍ずつ現れる為、右手も3拍目にアクセントが付き、2拍目の♪が弱くなってしまう「シャベルが」「えんそく」の「シャ」「え」が聞こえにくくなる。又、同様の箇所は3小節目「あめがあがって」「かぜにふかれて」「なみだかわいて」、5小節目「くもがながれて」9小節目「にじがにが」10小節目「そらにむかって」11小節目「きみのきみの」13,14小節目「きつとあしたは」と多数出てくる。特に子音がある場合、「シャベル」の「sha」「ふかれて」の「hu」等の母音の発声が不十分になり「shberu」「hkarete」のように発声される傾向にある。こういった場合、歌詞に重点を置き楽譜上にスラーで示したようにフレーズをとり♪をややはっきりと弾いた方がより歌い易くなり、歌詞も明確になる。

(6) フレーズに現れる同音の演奏法

保育の弾き歌い曲の中には、同じ音が連続して現れるフレーズが多数見られる。「山の音楽家」を例に示す。

山の音楽家

• 92

A musical score for the song 'The Rose Tree'. It features a treble and bass staff. The treble staff has a key signature of one sharp (F#) and a 3/4 time signature. The melody is written in a simple, folk-like style. The bass staff provides a harmonic accompaniment with chords. The score includes dynamic markings such as *mf* and *mp*, and a tempo marking of *And.* The lyrics 'The Rose Tree' are written below the bass staff.

[illegible][illegible][illegible]

「わたしゃおんがくか やまのこりす」の歌詞の部分は、「レ [ソソ] [ララ] シドレド [シシ] [ララ ソ]」と各同音を続けて弾くべき箇所があるが、殆どの学生が「[ソソ] [ララ] [シシ] [ララ]」の各同音連続の間を切って弾いている。このように伴奏を弾くと、「[レソ] [ソラ] ラシドレドシ [シラ] [ラソ]」とスラーがつながり、アウフタクトにアクセントがついてしまう。この奏法では、歌った際に「わたしゃお [んがくかやま] [のこ] [りす]」のように切れてしまい、本来の曲のフレーズから大きく逸脱し、正しい日本語による歌い方ができない。連続した同音をできるだけレガートで演奏し、「わたしゃ」「おんがくか」と繋げて歌わなければならない。

— 43 —

このような例は、「とんぼのめがね」「うれしいひなまつり」など多数の曲でみられる。ピアノ伴奏による保育の歌を「おはなしにメロディーがついたもの」と考えれば、歌詞の意味がよくわかるようなフレーズで演奏することが肝要である。また、授業時には、同様の事項に関する学生の理解を深めさせ、演奏時に適切に表現できるような指導が必要である。

おわりに

本研究を通して、保育の歌の弾き歌いを実践する為の指導時の留意点を把握できたことは、有用だった。保育者の音楽表現は子どもの感受性、表現力、創造性を育む上で大きな影響を及ぼす。よって、保育実践の場では、「何故その曲を用いるのか」「曲のもつ意味は何なのか」を検討し理解した上で、題材曲を用い表現することが重要である。

今後は、学生が曲の表現を更によく理解し実践するための他の方法についても検討していきたい。

謝辞

本研究のアンケート調査の際には、下清水広氏にご協力を頂いた。又、本学院の学生にはアンケート及び「あめふりくまの子」の絵を提出して頂いた。ここに感謝の意を記す。

引用文献

- (1) 大豆生田啓友 三谷大紀 2021最新保育資料 ミネルヴァ書房 pp.472
- (2) 大豆生田啓友 三谷大紀 2021最新保育資料 ミネルヴァ書房 pp.472
- (3) 若山剛ほか 1998 乳幼児期発達の諸相における相互性について 日本保育学会大会研究論文集 pp.518
- (4) 武田道子 1979 幼児の歌唱指導 静岡大学教育学部研究報告教科教育学篇 pp.130
- (5) 古屋晋一 吉井妙子 2015 音楽は心と脳を育てていた 日経BP社 pp.136
- (6) 玉置温子 1968 保育音楽におけるソルフェージュの役割 社会問題研究18 pp.42
- (7) 前川典子 2017 幼児の音感を育む音楽教育に関する研究－「聴く」ことに着目して－ 兵庫教育大学学校教育研究科・教育内容・方法開発専攻 文化表現系芸術コース芸術系教育分野 pp. 9-11学位論文
- (8) 小林美実 2016 続こどものうた200 株式会社チャイルド本社 pp.172～173
- (9) 東保 やさしい伴奏によるこどものうた① 株式会社全音楽譜出版社 pp.44
- (10) 松山祐士 2001 簡易ピアノ伴奏による小学1・2年の音楽 株式会社ドレミ楽譜出版社 pp.179
- (11) 矢田部 宏 2019 年齢別12か月こどものうた154カンタンに弾けてゴージャスに聴こえるピアノ伴奏譜 ひかりのくに株式会社 pp.218～219
- (12) 井口 太 2020 最新・幼児の音楽教育 株式会社朝日出版社 pp.108
- (13) 小林美実 2017 こどものうた200 株式会社チャイルド本社 pp.132～133
- (14) 矢田部 宏 2019 年齢別12か月こどものうた154カンタンに弾けてゴージャスに聴こえるピアノ伴奏譜 ひかりのくに株式会社 pp.126～127

(15) 2013 保育の四季 幼児の歌110曲集 株式会社エーティーエヌ pp.78

参考文献

- 奥千恵子 2009 保育者養成と演奏技法－保育指導としてのピアノ奏法－ 四天王寺大学紀要第48号 pp.137～154
- 赤井裕美 2016 ピアノを中心とした「保育音楽力」の在り方と養成校の音楽授業に関する考察 湖北紀要第37号 pp.29～40
- 浅野加歩理 2018 幼児教育現場における音楽の在り方－保育者の音楽経験歴から成される音楽に対する意識について－ 暁星論業第68号 pp.123～141

